



第31回

50年の歴史「プロ野球チップス」

※2022年4月の毎日新聞記事を元にした文章です。

校閲し、直すべきところを指摘してください。

今季も話題に事欠かないプロ野球。カルビー（東京都千代田区）の「プロ野球チップス」には約50年の歴史がある。商品を担当する三井剛さんに聞いた。



「プロ野球チップス」は1948年に「プロ野球スナック」として誕生。当時は長嶋茂雄選手や王貞治選手が大人気で、パッケージにも「ジャイアンツ他選手カード付」と書いてある。50年で約18万枚、2万種類のカードが世に出された。

まず10袋開けてみよう。カードは1袋2枚入り。オリックス・宮城大弥投手ひろやなどスター選手が次々

出てくる。8袋目でヤクルトの奥川恭信投手やすのぶの「キラカード」をゲット。テンションが上がる。ポテトチップスは、あつという間に私と家族、同僚の胃袋に。カードを取り出すワクワク感が癖になりそう。追加で買おうかな……。

カードには三井さんのこだわりが詰まっている。掲載する選手は成績でなく、人気や注目度も考えてリストアップ。球団の意見も聞きながら決定する。写真はその選手らしさがにじみ、なるべく顔が見えるカットをセレクト。裏面には略歴や成績などを記載している。日本ハム時代から「二刀流」で活躍する大谷翔平投手の場合は、写

真、成績とも投打両方を乗せた。

大変なのは、選手の選定から発売までに数カ月のタイムラグがあること。三井さんは「シーズン前は『この選手は活躍するのか』とスカウトのような目で見てしまします」と笑う。発売前にけがでの離脱や移籍もあり得る。

抽選で選ばれたファン6人が参加した「ファンファンミーティング」の質問コーナーでは、参加者の言動が熱を帯びる。「王さん、長島さんの復刻カードが欲しいのですが、何袋買ったら当たりますか」という直球の質問に、三井さんは「ランダムに入れているのでわかりません」と回答。しっかりミットに収めた。復刻してほしいカードを提案する会議では、喧々けんけん々々の議論に。名前が拳がったのは、いずれも日本球界の歴史に残る選手。採用されるといいな。

知識を得て、なおさら疑問は深

まった。どうしてポテチのような人気商品に、手間をかけてカードを付けているのですか？

「ポテトチップスは主力ですし、中身には自信があります。だからこそ、カードをきかけの一つとして、子どもたちが自分で選んで買ってくれる最初の商品になれば、と考えております」と投げ返してくれた。プロ野球チップスのメインターゲットは、昔も今も小学生男子。ポテチとカードを集める楽しさを一緒に味わってもらうため、趣好を凝らしているのだ。

ポテチを食べた手を丁寧に拭いて、カードを裏返す。成績を確認すると、第一戦の選手でも、打率は2〜3割台。プロでさえ、うまいかないことの方が多いのだ。それでも勝利や記録に挑み続ける選手の姿に励まされる。